

司書講習授業への生成 AI の導入に伴う受講生の変化

長塚隆*

*鶴見大学

*nagatsuka-t@tsurumi-u.ac.jp

2022 年に ChatGPT が開始されて以降、多くの生成 AI サービスが提供されるとともに、生成 AI に新たな機能（ツール）が追加されている。生成 AI の機能向上は高等教育機関における教育や研究のあり方に大きな影響を与えている。本研究では、司書講習の「図書館情報技術論」授業への生成 AI 導入が受講生の思考や行動にどのような影響を及ぼすかを、直近 2 年間の授業開始時と講習の終了時に、受講生にアンケート調査を実施することで、受講生の状況を把握し、その変化を分析した。

Transformations in Student Engagement Following the Integration of Generative AI into a Librarian Training Course

Takashi NAGATSUKA*

*Professor Emeritus, Tsurumi University

1. はじめに

数年前に ChatGPT に代表される生成 AI が出現し、情報の探索において新たな役割を担うのではないかと考えられてきた。Google などの検索エンジンが収集する最新情報は ChatGPT などの生成 AI の回答生成の情報源となっていなかったため、生成 AI の利用には大きな制約があった。

近年、生成 AI の機能（ツール）が大きく拡大しており[1]、高等教育機関における教育や研究のあり方に大きな影響を与えている。様々な側面から各国で多くの研究が進展している[2, 3]。わが国においても高等教育での生成 AI の授業への導入が試みられている[4]。

本研究では、司書講習の「図書館情報技術論」授業への生成 AI 導入が受講生の思考や行動にどのような影響を及ぼすかを、直近の 2 年間にわたって、授業開始時と全体の講習の終了時に、アンケート調査を実施し、受講生の変化を分析した。

2. オンデマンド授業での生成 AI の導入方法

生成AIに関する基本的な知識を習得し、必要に応じて活用できる能力は、今後の司書にとって必要な知識になってきていると言える。司書講習の科目「図書館情報技術論」のオンデマンド授業で、2024年度と2025年度の授業の最初に、生成AIの概況とその利用方法について説明資料を提示して、受講生の理解を促したうえで、全部で15種類の授業課題を達成するために、積極的に生成AIの利用を試みることを求めた。

3. 受講生へのアンケート調査方法

司書講習の科目「図書館情報技術論」のオンデマンド授業で、受講生に授業の最初（7月上中旬）と、司書講習の最後（9月中下旬）の時期に生成AIの利用の有無、授業での利用の状況、利用した生成AIの種類、利用した生成AIのツールの種類、利用しての感想などについて、授業で使用しているクラウド型教育支援システム「manaba」のアンケート機能を利用して実施した。

4. アンケート調査の結果

4.1 授業前の生成 AI の利用と種類

受講生の授業前までの生成 AI の利用経験は、2 回のアンケートの平均で、2024 年は 33%であったのが、2025 年になると 61%と大きく増加していた（表1）。この一年で、生成 AI の種類の増加や機能の向上もあり、社会人が多い受講生に生成 AI 利用の急速な拡大がわかる結果となった。

表 1：司書講習生の生成 AI の利用経験

年度	アンケート調査	回収日	受講生数	アンケート回収数	回収率	受講前生成AI利用経験	%
2024	1回目	7/19	126	122	97	39	32
	2回目	9/23	126	109	87	37	34
2025	1回目	7/16	117	117	100	74	63
	2回目	9/25	117	106	91	62	58

注 1) 調査対象科目は「図書館情報技術論」

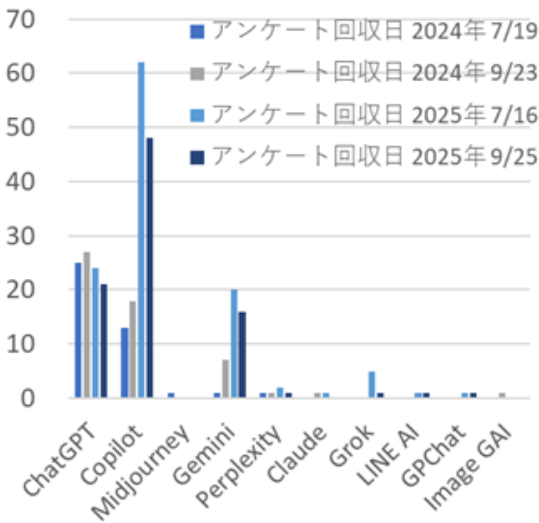


図 1：司書講習前に使用していた生成 AI

受講生が司書講習前に使用した生成 AI は、2024 年では ChatGPT が 20%で最も多く、次いで Copilot が 11%であった（図 1）。他の生成 AI（Gemini, Midjourney, Perplexity）の使用は 1%未満であった。2024 年の講習修了時には ChatGPT が 25%で最も多く、次いで Copilot が 17%と使用する受講生が講習を通じて増加した。2025 年では、司書講習前の使用生成 AI の昨年

との違いは Copilot が 53%で最も多くなったことである。ChatGPT は 23%と昨年とほぼ同様であった。昨年はほとんど使用のなかった Gemini が 17%と ChatGPT とほぼ同じ程度となったことが大きな違いと言える。2025 年の講習の修了時には Copilot が 45%と最多であったが、講習前の 53%から少し比率が下がった。Copilot や Gemini の利用比率はあまり変わらなかった。

この一年間で利用される生成 AI が ChatGPT のみから、Copilot と Gemini が共に利用されるようになったのが大きな特徴と言える。

4.2 授業課題での生成 AI の利用と種類

授業課題の作成に生成 AI を使用したかを各年の 2 回目のアンケートで調査した（表2）。授業課題の作成への生成 AI の利用は 2024 年では 87%，2025 年では 91%であり、両年ともほぼ 90%の受講生が課題の作成に使用していた。

表 2：授業課題で生成 AI を使用

調査年	2024 年		2025 年	
生成 AI を使用	受講生数	(%)	受講生数	(%)
はい	109	87	115	91
いいえ	0	0	2	2
未提出	17	13	0	0
合計	126	100	117	93

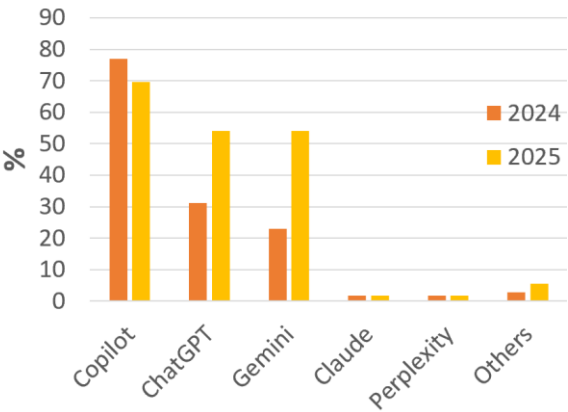


図2：授業課題の提出に使用した生成 AI

注1) 複数回答可

図2は、授業課題の提出にどの生成 AI が使用されたかを示している。2024年はCopilot が77%, ChatGPT が31%, Gemini が23%でほぼこの3種類の生成 AI で占められた。2025年にはCopilot は70%で昨年とほぼ同じ比率であったが、ChatGPT が54%, Gemini が54%と前年に比べて利用比率が大きく増加した。この3種類の生成 AI の利用が中心であったのは前年と同様である。

4.3 他の授業での生成 AI の利用

図3は、司書講習の他の授業での生成AIの使用の有無である。2024年の利用者は36%であったが、2025年は78%と大きく増加した。2024年は授業前の体験者が少なく「図書館情報技術論」の授業では使用したが、他の授業では使用を控えた受講生が多かったためと推定される。複数の受講生から、授業の課題などに生成AIを使用してはいけなと考えていたとの意見があった。2025年は受講生からのこのような意見はほとんどなく、この間に状況の変化があったことが伺える。

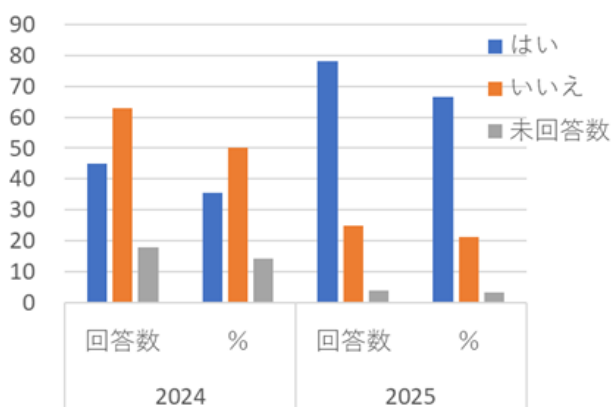


図3：他の授業で生成AIを使用しましたか

注1) 図3-5は司書講習終了の9月中下旬に調査

図4では、受講生に他のいくつかの授業で生成 AI を利用したかと質問した。2024年は1科目が15%と最も多く、次は6科目以上が8%であり一部の受講生は積極的に生成 AI を利用していたことが分かる。2025年も1科目が24%, 6科目以上が22%と同じ傾向であったが、利用者は2024年

36%から2025年73%へと大きく増加した。

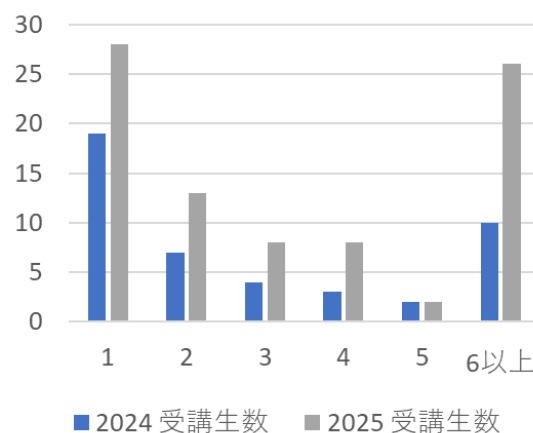


図4：生成 AI を使用した授業科目数

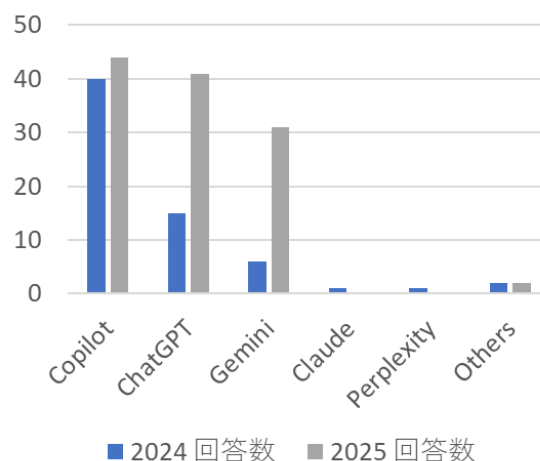


図5：使用した生成 AI の種類

図5は、他の授業で、どのような生成 AI を利用したかを質問した。使用された生成 AI は2024年はCopilot が89%, ChatGPT が33%, Gemini が13%であり、2025年はCopilot が98%, ChatGPT が91%, Gemini が69%と3分の2の受講生が3種類の生成 AI を併用していた。

4.4 今後の生成 AI の利用

図6は、各年の講習終了時のアンケートで、今後も生成 AI の利用を継続するかを聞いた結果である。2024年では83%, 2025年で90%の受講生が継続したいと返答していた。大部分の受講生は生成 AI の必要性を十分に認識し、今後も利用を継続したいと考えていることが明らかになった。

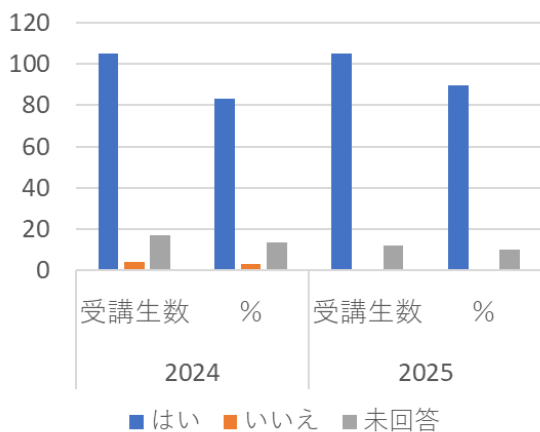


図 6：今後の生成 AI の利用

4.5 最新 Web 情報を含む生成 AI ツール

2025 年の講習終了時の調査で, Copilot Search, ChatGPT Search など最新 Web 情報を含む生成 AI ツールの使用を調べた (図 7). 利用者は 23% で, 利用していない受講生が多いことが分かった.

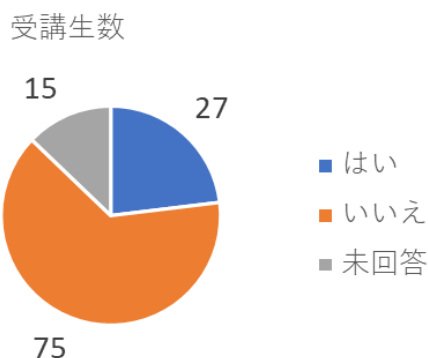


図 7：最新 Web 情報を含む生成 AI ツールの利用

4.6 Deep Research ツールの使用

表 3：Deep Research ツールの使用経験

Deep Research ツールの使用	受講生数	%
はい	31	26
いいえ	75	64
未回答	11	9
合計	117	100

ChatGPT は 2025 年 2 月に, Gemini は 3 月に

調査や研究などに使用可能なように出典付きで詳細レポートを作成し, その作成プロセスも出力する詳細レポート自動作成 Deep Research ツールを導入した. この新しい機能について, 9 月中下旬の受講終了時までには多くはないとはいえ, 受講生の 26% が試みていた (表 3).

5. まとめ

司書講習の「図書館情報技術論」授業での生成 AI の積極的な利用経験により, 一定の受講生が他の授業でも工夫しながら生成 AI を利用していたことが明らかになった. さらに, 2024 年に比べて 2025 年では受講生の生成 AI に対する姿勢も変化しており, より多くの受講生が生成 AI の利用に積極的であった. ただし, 2025 年になって導入された生成 AI の新ツール Copilot Search, ChatGPT Search などの利用は少数であり, 今後の司書講習教育における課題と認識している.

今後の司書の養成を考えると, 生成 AI のリテラシー能力をさらに向上出来るような授業内容が強く求められているのではないかと考える.

注・文献

- [1] 長塚 隆. 地域史資料の探索における生成 AI プラットフォームの新たな役割. 情報知識学会誌. 2025, vol.35, no.2, p.286-295.
- [2] Uday Mittal et al. A Comprehensive Review on Generative AI for Education. IEEE Access. 2024, vol.12, p.142733-142759.
- [3] Yueqiao Jin et al. Generative AI in higher education: A global perspective of institutional adoption policies and guidelines. Computers and Education: Artificial Intelligence. 2025, vol.8, 100348, p.1-12.
- [4] 原田隆史. 大学教育現場における生成 AI 技術の利用. 情報の科学と技術. 2024, vol.74, no.8, p298-303.